

山岳移動通信

山と無線



ハムフェア特別編集号

61号

山岳移動通信 山と無線 61号 目次

○ 私の交信記録	7K1BAE	青柳 紘三	2
◎ 東京都の最果てで CQ をさげが	JK1IFW	有原 一登	5
○ こんなことしています	JL1KPM	羽村 好則	12
◎ 山から無線の輪	JK1NAG	河野 尚美	14
○ 山からこんにちは	JF6MZN	宮崎 秀一	17
I 山歩きでアマチュア無線は役に立つ?			17
II どのリグを山につれて行こうか?			19
III 山を通じたハム仲間作り			21
○ 1200MHz 移動運用	JA1DGW	望月 直樹	29
◎ 丹波山村の小袖山	JJ1KAE	岩倉 志郎	34
○ 3年ぶりのフェスティバル開催	JJ1TLL	須崎 純一	37
○ 沼津アルプスハーフ縦走	JH1HRT	津村 和男	38
◎ (資料) 2023年秋の一斉移動運用記録			44
◎ (資料) 2024年春の一斉移動運用記録			45
○ あなたは大丈夫? 発作性心房細動の恐怖	JH1QZW	滝沢 芳章	46
○ 凵子さんと女峰山を歩く	JJ1TLL	須崎 純一	51
○ 復旧なった石老山へ	JL1BWG	飯田 実	57
○ 石砂山へ	JR1NNL	後藤 誠	60
◎ 鬼も転居か鬼太郎山	JA1CTC	小林 恵一	64
◎ POTA の運用	7K1CPT	山田 清治	69
◎ 究極のハンディ HF 機 KH1 で SOTA	JG1BOK	川真田 智	73
◎ 立山山スキー山行	JK1NRL	竹之内 一弥	76
○ クジラとブラジルと	JK1VUZ	三縞 健司	82
○ 屋久島の山旅	J07XCR	渡辺 五郎	89

ハムフェア特別編集号では◎を掲載しています。
会員登録していただくと全文をご覧いただけます。



東京都の最果てでCQをさけが JK1IFW 有原 一登

私は高い山に登って無線をするのが好きです。驚くほど遠くの局長さんに自分の声を届けられる嬉しさや、時間をかけてようやく到達できた山頂から「今、〇〇山山頂に来ております」——そんな風に運用地を紹介できるときの感動につけても、登山と無線はシナジーのある趣味だなあと感じています。

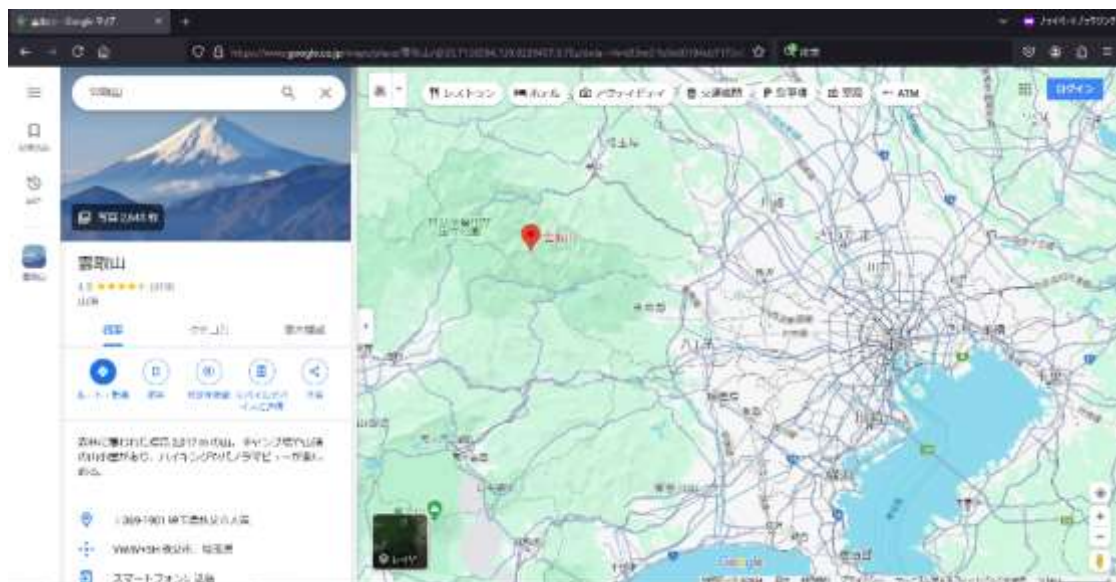
2024年のGW、特別な外出予定もなく、ひとつくらい小屋泊の登山旅行をしたいなあと計画をしていたときの事です。アルプスの山々や八ヶ岳はまだ残雪があって私の技術では危ないし、「そうだ、奥多摩の最果て・雲取山(標高2,017m)に行

ってみよう」と思い立ちました。雲取山は東京都西多摩郡奥多摩町、埼玉県秩父市および山梨県北都留郡丹波山村の三都県境に位置する百名山であり、東京都最高峰でもあります。

5月4日～5日の1泊2日、非常に良い天気に恵まれ新緑を感じながら富士山景を愛でるといふ、素敵な山旅ができました。

1日目:鴨沢からの長い長い道のり

雲取山に登るには埼玉県側の三峯神社コースと山梨県側の鴨沢コースまたは三条の湯コースが代表的です¹。私は、行きは鴨沢コースで、帰りは三条の湯コースを歩くことにしたので、東京都最高峰を目指す旅は実質的に山梨県メインの登山だったりします。



GWは“都内”で過ごしました(笑)

¹ 昭文社の山と高原地図だと、27巻『雲取山・両神山』のほかに25巻『奥多摩 御岳山・大岳山』にも雲取山が取り上げられていますが、後者では山梨県側のルートしか地図の範囲に入っていないので三峯ルートを歩きたい人には要注意と思いました。

鴨沢コースはJR青梅線奥多摩駅から登山口までバスで行って、そこから緩いけれども非常に長い登山道を着実に登り続けるルート。山頂までの所要時間はおおよそ5.5～6時間もかかるということで、これまで経験した中で最も長時間の登山です。実際、予想通り大変登り応えがありました……！



富士山が見えた！

とはいえ、だんだんきつくなってくるのも事実。そんなとき、タイミングを見計らったかのように見事な富士山が姿を現してくれました。絶景を目にして疲れも吹き飛びます。

さらに歩を進め、出発から3時間強登るとようやく七ツ石山荘(このルートの重要なチェックポイントのひとつです)まで到着しました。売店でアクエリアスとカップ麺を購入して小休止します。塩分の補給は大事です。

七ツ石山荘を後にすると、途中のピークの七ツ石山山頂(標高1,757メートル)を通過。ここから、目指す雲取山頂を望むことができます。ここまで来てやっと目的地が見えるということですから、いかに雲取山が奥地に鎮座しているかがわかります。ここからがまた長いのですが、展望の開けた尾根を歩くことができるのは快感。すごく高い山ではないのでハイマツの絶景とかそういう系ではないものの、日常植生上の楽園・天空への散歩道という感じがとても気持ちよかったです。



登山口から新緑の世界へ

登り続けること2時間強、森林浴を延々と楽しむ時間が過ぎていきます。日常ではいつもインターネットで情報をせわしなく収集して、好むと好まざると四六時中頭を使っているものです。ただただ大自然の中で、頭を空っぽにして(といいつつ色んなことが頭に浮かんで来るのですが(笑))身体を動かすことができるのは貴重な時間です。



昼下がりの休息

長い長い道のりの末、雲取山避難小屋の屋根が見えてきて——「やっと着いた！」雲取山初登頂です。時刻は15時過ぎ。まったり休憩したり写真撮ったりもしながら自分のペースで登っていたらやはり6時間コースでした。山頂ではすでにアマチュア無線をなさっている同業の方もいらっしゃいました。ここまで来て私も無線をやりたいところですが、かなり時間も遅く



最高峰への散歩道に行く

なってしまったので、山頂でのオペレーションは明日に取っておいて今晚の宿、雲取山荘に向かいました。

雲取山荘での思い出:無線、夜景と流星と
お世話になった雲取山荘は山頂を越えてもう少し埼玉県側に下りたところにあります。翌日が5月5日こどもの日と相まって玄関に飾られたこいのぼりが出迎えてくれました。私は、もはや子どもといえる年齢はとうに過ぎてしまいましたが、登山で感動したり無線でのお話を楽しんだり、気持ちの上ではいつまでも新鮮な童心を忘れずにいたいものです。

宿にチェックインした後、玄関先のベンチ

でビールを乾杯しながら無線機の電源を灯してみます。素晴らしい。430ですごくよく聞こえて、座っていても十分にオペレーションできます。手持ちハンディ機使いの運用では、立ち上がって何とかいい感じにアンテナを構えてやっとなんか……ということが多いものですから、椅子に座って落ち着いてオペレーションできるという快適さは夢のようです。標高の恩恵はやはり大きいですね。

ベンチで無線をやっていた私を見かけた小屋のオーナーさんが声をかけてくれました。聞くと、オーナーさんもアマチュア無線家でいらっしゃるとのこと。出力が弱くても非常に遠くまで飛びますよと教えていただき、やはり雲取山すごいなあと再認識しました。



雲取山登頂



雲取山荘にて

泊まりの登山旅行では夜に星空を観るのも楽しみのひとつですが²、今回は東京都心を見下ろす名峰に來ていますから、夜景も楽しみです。ちなみに、都心の夜景が一望できるスポットとしては山荘の庭先から少しテントサイトの方にずれたあたりの方が良いかもしれません。自然の向こうには首都のきらめき、スカイツリーもば

っちり見えました。都心と反対側の空には星々も輝き、写真に流星をとらえることができたこともラッキーでした。都会と自然の境界線、日常と非日常のあいだで——東京の最果てから都心の日常を見守ってくれているこの山に想いを馳せて、しばしあたたかな夜空に身をゆだねるのでした。



遥か都心の光を望んで



航空機と流星の共演

² ザックにカメラやら赤道儀やらを詰めていると荷物が重くなります……苦笑

2日目:雲取山頂からの無線オペレーション&帰り道

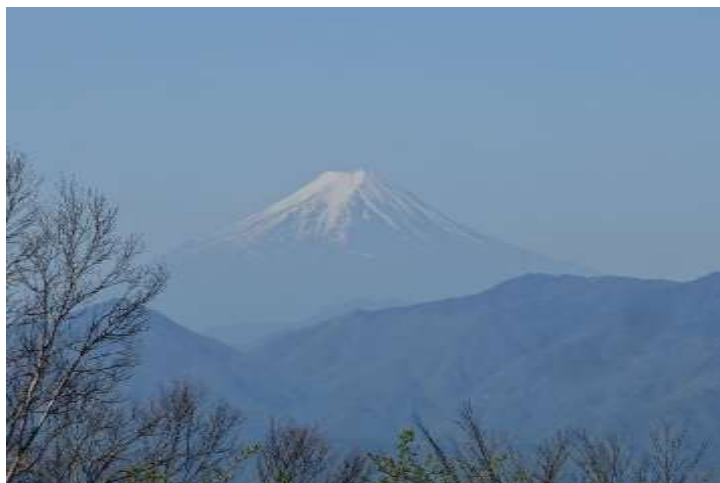
翌朝、支度をして山荘をチェックアウト、再び雲取山頂に向かいます。普段はひどく夜型ですが、早朝の清々しい空気は私も好きなのです。

下界から遠く遠く離れた奥地で静寂の自然を感じて、この時間に山頂に立てる人は泊まりで来ている人しかいない——そんな時間帯の「山頂」はなんだか特別感のあるものです。今日も天気は晴朗、富士山が本当に綺麗でした。山梨県側から見る富士山って、本当に美しくて。大菩薩嶺の向こうに浮かび上がる巨大な山容、春先の雪加減の陰影も印象深かったです。視線を西側に移すと、南アルプスの名峰がまだ雪化粧でそびえているのも眼福でした。

東京都最高峰の絶景を最大限満喫して、そろそろ無線機を準備します。何しろ、下山にも5時間くらいかかるということで、

10時過ぎには撤収しないといけないのです。昨日は山荘で430の運用をしたので、今回は2mで出てみます。1時間20分ほどの運用で9局の方とお話いただくことができました。東京・神奈川・埼玉・山梨・千葉と、1エリアの各地の局長さんから続々とお声がけいただくことができ、とても嬉しかったです。雲取山に登ったことがあって気になったとお声がけくださった方との登山道談義や、以前に南アルプスの仙丈ヶ岳山頂で1st QSOいただいた方との感動の再会をはじめとして、皆さまとのお話がとても楽しかったです。

帰り道は再び山梨県側に下りるのですが、行きの鴨沢コースとは異なる三条の湯コースで帰りました(降り口はほぼ同じ)。鴨沢コースが延々と緩い登山道を登り続けるコースであるのに対して、三条の湯ルートは打って変わってとてもアドベンチャーに感じました。皆さん鴨沢の方を好むのか人通りもかなり少なく、御機嫌に鼻歌を歌いながら³どんどん高度を下げ



富士山の美しさに癒されて

³ なんて油断していると誰かに聞かれてるかもしれませんが……(^^);



東京都最高峰での無線オペレーション!

ていきます。初夏の美しい花々を愛でながらのハイキング。途中、山中の温泉小屋・三条の湯に日帰り入浴して一休みしました。アイゼンが使えるようになったら、冬に泊まりに来てゆっくり湯治の旅なんかもしてみたいなあ。

三条の湯からもさらに数時間と骨のある道のりを経て、無事に登山口に帰ってきました。余談ですが、三条の湯コースの登山口から奥多摩駅に戻るには路線バスの「お祭」バス停が最寄りであり、鴨沢のバス停よりも1駅先になります。おかげさまで問題なくバスに乗れたものの、次の鴨沢バス停では乗客があふれていて乗り切れなかったほどでした。帰りを三条の湯コースにしたのは結果的によかったかも。

昨日朝以来に戻ってきた奥多摩駅は非常ににぎわっていて、そういえばAfter COVIDで行動制限のないGWの行楽地の賑わいとはこういうものだったなあと思い出しました。

私もこうして、日常への帰還を果たしたことを実感するのです。



快晴に映える草花たち



おまけ:奥多摩駅付近でサルに会えました

山から無線の輪

JK1NAG 河野 尚美

私が登山を趣味として始めたのは10数年前。それ以前は専ら子供を連れてのキャンプやハイキングを楽しんでいた。長女が中学校に入り、一緒に遊びに行く時間が取れなくなったので、1人で近場の山に行ったり、ツアーに参加したり。何人か山仲間が出来て数年楽しんだがコロナをきっかけに疎遠になってしまい、新たな仲間を得なくて3年前に今の山の会に入会した。

その山の会の山行で無線していたJF6MZN局を見かけたのがきっかけで無線に興味を持ち、色々教えてもらって免許を取って無線を始めたのが約2年前。FT65を山にもって行って山で無線するだけでなく、家からFT8やCWをすともっと無線を楽しむ幅が広がると教えてもらったが、なんせ、まだ現役世代。週末に登山に行くと、家で無線を楽しむ時間はほとんど確保できない。ご近所OMさんにいろいろ声かけてもらってもなかなかタイミングは合わず、無線できない。いろんな会のOAMに誘ってもらっても参加する時間がない。でも、せっかく始めた無線、細々とでも続けて老後の楽しみにつなげたいと思い、あまり時間の取れない山の会での山行の時でもできるだけ無線機を持参し、山頂休憩20分の間に最低1局だけでも無線交信するようにしていた。すると、“若い頃無線の免許取った”、“中学校の頃無線部だった”などと

声をかけてくれる人が意外に多くて驚いた。20-30年前にアマチュア無線が流行ったというのはほんとなのだなーと実感。山行中に、免許はあるけどずっとほったらかし、局免も切れちゃった、という人に“また局免許取り直してやりましょうよ〜”って勧誘してみたけれど、“え〜、もういいよー、昔のことだし〜”との答え。そんなもんかなあ、と思いながらも機会あるたびに声をかけていたら、JG1XAZ局、JI1JHK局の2局が再開局してみようかなーと答えてくれた。

先日、JI1JHK局が、“ついに局免が届いて、新しくハンディー機も購入しちゃいましたよー”、と嬉しそうに報告してきた。おおー、これは一緒に“山からCQ”をしに行かなくては！と思い、移動運用に誘う事にした。ちょうどJF6MZN局、JE4OFK局と山岳移動運用の予定があったのでそれに便乗しようと計画を進めたが調整がつかなくなり、結局JI1JHK局と2人で行く事になった。当初ベテランOM2人に色々見せてもらったり教えてもらったりするつもりだったのに当てが外れてしまい、FT65しか持って行けない初心者の方と行っても何も教えられないことはないけど、まあ、単に“山からこんにちわー”って楽しめたらいいかな、と割り切る。目的地は、当初仏果山へ行く予定だったが、諸事情により高川山へ行くことになる。せっかくなので昨年フェスティバルの時にJI1TLL局に教えてもらったRH770アンテナをケーブルでつないで高く上げるのをトライしてみようと思い、

ケーブルを購入して持参した。当日はお天気よくなり、山行中に途中で立ち止まって無線機をつけていろいろウォッチしてみたり、山頂ではストックにアンテナをつけて高くあげてCQ出してみたり。程々に呼ばれ、いろいろ交信ができ、1時間半程度だったが交代で無線を楽しむことができ、JI1JHK局は満足してくれたみたい(だと信じたい)。下山後は生ビールに大月餃子を食べながら無線談義、山談義に花を咲かせ、昔の無線部はどんな感じだったかを楽しそうに語ってくれた。

さらに山と無線の一斉移動の日に、ちょうどJI1JHK局主催の会山行に参加することになり、一緒にFT65を持参して川

苔山から山と無線メンバーのJA1DGWさんと繋がる事ができた。これは、JI1JHK局にも山と無線のメーリングリストに入ってもらうしかないって思い誘ったが、拒否・・・でも、山からCQが聞こえたら勧誘してあげてください。

そんな話を山の会の山行中や反省会中に話していたところ、“実は、自分もちょっと無線に興味が出てきたので、免許取ろうかと思っているんですけど・・・”という声が聞こえてきた。おお、これはうまく勧誘しなくては、と思い、“ぜひぜひ一緒に楽しみましょう！ わからない事があればJF6MZNさんがなんでも教えてくれますよ！”と宣伝しておいた。ホントに免許取



高川山山頂でアンテナ立ててみました。人がいっぱいいて、何人かに“何やってるんですか？”とか“昔無線やりました”など声かけられました。



JI1JHK局も何やらメモしながら無線

ってくれるかどうかはわからないけれど、徐々に山から無線の輪が広がって行く感じがしてすごく楽しみ。

こんな感じで、今年はおっぱら細々と山

からハンディー機運用を楽しむだけで、去年の懸案、山からCWの実現はまだまだ先になりそうな感じですが・・・まあ、まだ先は長い(と思う)ので、ゆっくり無線を楽しんでいきたいと思っています。



山と無線一斉移動の日に川苔山会山行



お昼ご飯食べながら無線を楽しみました

丹波山村の小袖山

JJ1KAE 岩倉 志郎

終点の奥多摩駅で青梅線を降りると駅前には登山の格好をした人達で大混雑していた。私は通りの向こう側のバス乗り場に急いで向かった。およそ20分後に出発する目的のバスには人の列が出来ていた。しかし上手いことに先頭から十数人程の処に並ぶことができた。これなら座れることだろう。

今日はこどもの日でゴールデンウィークも明日で最終日。ここに並んでいる人達は恐らく雲取山一泊の計画を持つ人達と思われる。今年の連休は気温が高く、今日は晴れ渡った青空と輝く太陽で真夏のような感じすらする日だ。

8時半頃になってバスに乗り込み、予想していたものの何とか後ろの方の座席に座ることが出来た。超満員のバスは少し



奥多摩駅前で出発を待つ鴨沢行きバス

て出発。乗客は若い人が多いと言うか、私のような高齢者はちょっと見回してもいないようだ。

1. 登山基地、鴨沢へ

最近では奥多摩以外の山、例えば北関東周辺の低山歩きが多くなってしまった。その理由はヤマランのポイント対象で、無線運用が楽な山が多いからである。私のホームグラウンドである“奥多摩”には、無線運用を残している山が非常に少なくなってしまった。まだ未運用の山はそれなりにあるが、登るのに多くの時間が掛かる奥まった山が殆どである。

さて、動き出したバスは登山口のある停留所で何人かずつ降ろしながら、新緑が美しい奥多摩路を順調に進んで行った。30分程すると目的地である鴨沢のバス停に到着した。殆どの乗客がここで降りた。ここ鴨沢は奥多摩の人気コースである雲取山への登山基地である。それなりの店舗などもあって、活気があり好ましい雰囲気がある。

今回小袖山に登ろうと思ったのは、そこがそんなに奥まったところでもなく、昨年7月に登ったことのある小袖乗越村営駐車場の奥にある権現山(800m)にほど近いということもあった。また標高は1054mとそれほど高くなく、私の足でも1時間ちょっとあれば登れると思ったからだ。だが、地図を見ると周囲には同じ位や少し高い山が結構ある。その為無線のロケとしては余り良くないかも知れない。でも多摩川沿いに東に開けている筈なの

で、何とかかなりそうな雰囲気はあると読んだ。今回のルートも小袖乗越まで権現山と同じ道を行くので気は楽である。

2.小袖乗越から入山

鴨沢停留所から七ツ石山、雲取山へ続く道を進むと、30分程で村営駐車場がある小袖乗越となる。ここから前記の山々に向かう舗装道路が伸びるが、道路が二股に分かれるところに“釜場タワ”の説明板が立っている。小袖山へはこの後ろの高みを登って行く。

山と高原地図“奥多摩”には小袖山の山頂表示はあるものの登山道は描かれていない。しかしネット情報を調べると藪はないようなので特に問題はないと思われる。なお手元のスマホには“地図ロイド”で地形図を表示させているので、必要に応じて確認しながら進んで行った。道は一応あるよう？だが、何しろ人が余り入らないらしいので枯れ葉、枯れ枝が積もって地面を覆ってしまっている。そんな所が多いので、下を見ながら滑ったり足を取られたりしなさそうな所を見繕って進んで行った。周囲の森は杉や檜の植林ばかり



小袖山の登山口



新緑が美しい雑木林

のところもあるが、広葉樹主体の雑木林もあって、そんなに雰囲気は悪くはない。やはり雑木林は季節柄その緑がとても美しく、この時期の明るい太陽光と相まって素晴らしいものがある。この辺まで登ってくると、枯れ葉なども少なくなり、かなり歩き易くなってきた。

雑木の幹を見ると、根本から分かれているものが多い。これは恐らく昭和30年代辺りまで薪炭採取のために切られた小檜や欅なのではなかろうか。この山には無かったが、登山道沿いに廃屋がある山を奥多摩で何回か見ている。それだけ当時は山で生活をする事が出来た時代だったのだ。そんなかつての生活の場であった廃屋の庭？には野草ではなく、園芸種の草花が生い茂っていたりして、廃屋そのものとも相まって、より一層わびしさを感ぜさせるものがあったりする。この小袖山も昭和時代には炭焼きの職人さんが毎日登って一日中炭焼きをしていたことだろう。そんなことを思いながら誰もいない山を登っていった。

山頂が近くなってきたのだろう。前方の

樹林に透ける空が広く明るくなって来た。山を登っていて、この時ばかりは安堵の気持ちがあふれてくるのは何時ものことである。その後5分ばかりで山名板と三角点のある山頂に着いた。

3.山頂での無線運用

早速運用の準備を始めた。昼も近いのであまり時間を掛けたくないの、設置が容易な6m用ワイヤーDPを樹木の間に張った。いつものことだが、最初は強く入感している局をこちらかコールして無線機の調子を見る。今回はJARL中央局のCQが入感している。これは55-55のレポートでQSO出来た。次は最近よく交信している茂木町移動局のJE1BQF/1で51-51のレポート交換をした。突然ここでスマホの電話が鳴り始めた。出てみると驚いたことにJI1TLL須崎さんからだった。「こちらに入感していますよ」との事。その後交換したレポートは51-42だった。ノイズが少々邪魔をしていることだった。



狭い山頂に装備を広げた

そんなに高くない山奥から海の近くまで電波が届いているのが素晴らしいことだ。ヘンテナを使っていたらもう少し良いレポートになっていたかも知れない。私の場合、山頂での交信は最低限度の局数しかやらない。要はヤマランのポイントが取得出来ればそれでOKなのだ。そのうえ、更に山と無線やヤマランのメンバーとのQSOが出来れば大満足の運用結果となる。今回はこれで店じまいとなった。設置した装備をかたづけて、カレーパンと豆乳で簡単な昼食を済ませ下山を開始した。

4.おわりに

今回の小袖山は登り残した奥多摩の中で小一時間あれば登れそうな山として選んだのだ。登って見て分かったのだが、無線運用には他の人は来ないし、海近くの神奈川まで何とか電波が飛んだので結果として良かった。最近はずっかり奥多摩には来なくなってしまった。しかし登り残した山を選んで、今回のように登ることを最近始めた。何と言っても自宅から近いし、ハム人口最大の関東平野が眼前に開けている山域なので無線運用者としても登る価値は十分にある。

帰りも殆ど登りと変わらない小一時間で鴨沢まで戻ることができた。でも丁度良いバスが無い。しかし留浦のバス停まで戻れば早く来るバスに乗れると出ていた。けだるい午後の太陽の下、私は青梅街道を歩いて行った。

(登山日:2024年5月5日)

鬼も転居か鬼太郎山

JA1CTC 小林 恵一

鬼太郎山は山名辞典や山行記録から「おにたろうやま」と呼ばれるようだが、水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」の影響か「きたろうやま」のほうがなじみがある。ゲゲゲの鬼太郎つながりで17年程前に都内の山岳会グループが登ったとの記録が見つかった。藪山であったようで、登頂記念として山頂に鬼太郎親子の肖像入り山頂標識を設置したとのこと。はたして17年近くたったいまどうなっているのだろうか。

福島県の川内村にある鬼太郎山は自宅からはかなり離れている。当日は鬼太郎山以外に2座登ることにしたので前日に出発して、近くの「道の駅ならは」で仮眠してから登る計画とした。道の駅は温泉も併設されていて、駐車場も広くお勧めでした。翌朝はナビに目的地として貝ノ坂付近をセットして出発。早朝なので車も少なく順調に走行。

サゴ岡林道(舗装)から登山口に向かう乙次郎(貝ノ坂)林道入口に到着したときはまだ薄暗く、遠くの山並みがやっと朝日に照らされてはっきりしてきた。まずは、林道に車が入っていったが道幅が狭く、後半は荒れて走行できそうもないとの事前情報があり、歩いて行くことも計画していたので、無理な林道の走行はやめて入口のスペースに駐車して歩いていくことにした。登山口までおよそ3.5km程なので1時間もかからないだろう。準備している間に明るくなってきた。ここで持参のバナナを食べてエネルギー補給。

しばらく登り気味に林道を歩く。林道歩きなので順調に1本目の送電線の下を通過。林道は、車でも入口は狭いが中盤は走りやすい道路の状態であった。このあと、2本目の送電線の下を通過するまでは通常の林道が続く。結果的に、林道は2本目の送電線を通り越すところまでは普通の車でも走行可能でした。2本目の送電線まで片道2.4kmほど余分に歩いたことになった。この2本目の送電線を通り越す付近に巡視路の杭標識があった。この付



林道入口



送電線2からの林道

近は林道が広く駐車可能なスペースがあった。林道の状態は結果論で、たまたま今回は状況がよかっただけであろう。若干の時間がかかるが林道歩きも得るものがあるだろうと自分に言い聞かせる。

2本目の送電線の下を通過して、少し先に歩くと林道は夏草に覆われている箇所があり、その後はかなりえぐれている区間が続く(やはり林道は荒れていた、どこまで走れそうかの情報は変化するのでしかたないか)。その後は、また通常の林道に戻る。二本目の送電線を通過してから1.1kmほど歩くと、右側に「林道登り口2」



林道からの登山口



キノコ

の標識があった。ここが登山口となるようだ。林道起点から歩くことおよそ45分であった。

ここから登山道になり、急勾配ですべりやすいので片側にロープが設置されていたがロープを使うほどではない。登山道の途中には季節を感じるキノコが生えていた。最初の2点は食べられそうだが。。。アブナイ。

登山道を登っていくと、開けたと思ったら急に風力発電工事用の造成中の道路(最終的に幅は5m以上になる)にでた。山頂方面はGPSで確認するとこの道路に沿っているので道路を歩く。幸いに早朝なので工事関係者はいなかった。

風力発電設備工事のための道路、4号風車設置予定地を通過(何号まであるのだろう:後日資料によると10号機まで)。この工事用道路をさらに進む。

しばらく造成中の道路を歩くと、道路が分岐しているところに到達。GPSで確認



造成中 4号風車道路



山頂への造成中道路分岐点

すると、左右に分岐している道の中央の先が山頂になっていたのので、この分岐の中央のふみ跡を登っていくことにした。最初はふみ跡があったので登っていく。しかし、山頂手前で藪になってきた。山頂まであとわずかなのでそのまま藪を分けて登る。足元には白い杭もあったので昔はこのルートで登られていたようだ。ほどなく山頂に到着。山頂といっても特に標識や三角点があるわけではなく雑木林の藪山、GPSで位置を確認した。山頂は木々に囲まれているので眺望はない。17年前に某山岳会が設置したとされるゲゲゲの鬼太郎親子の標識は見つからなかった。



山頂への藪道



山頂とアンテナ

まあ、山頂は頂上を示すものではなく比較的平坦で木々に囲まれた藪山に近いので探しきれなかったかもしれない。

早速無線を始めることにして、山頂付近の枝にかからない場所にいつものMicrovertアンテナを設置。福島で低山ではHFでないと無線は厳しい。40mのFT8を運用することにし、スマホが通じるのでSPOTしてCQを出すと、チェイサー一局と順調に交信することができた。次に登る山もあり林道歩きも長いので、9局交信後、呼ばれなくなった契機で無線は終了とし下山することにした。

下山は登りに使った道は藪だったので、北側方面が明るく藪がないのでその方向から下ることにして、雑木林の山頂を抜けると3号風車へ向かう作業道の上部の伐採地点にでた。このルートなら藪に入らずに山頂までこれたようだ。伐採地点からは眺望がよく北側の山々が見えている。斜面を下って、作業道まで降りる。

「3号風車」方面に向かう作業道に下りてきた。登りはこの逆を利用すると簡単に



山頂から北斜面へ

登れる。あとはこの工事用作業道(造成中)を歩いて登山道まで戻るだけ。

造成中の作業道から登山道にはいる箇所に登山口を示す標識はなく、登る時に記憶した道路沿いに設置されている番号を見て判断した。工事に設置した「256」番付近が登山道入り口になる。木の赤ペンキと小さなテープも目印になるようだ。



造成中道路から登山道へ

この登山道入口が解ればあとは林道まで下り、林道を歩くだけ。

今回は朝も早く(山頂滞在時間をふくめての作業道通過は7:00~8:15)、作業道の工事(8時30分頃開始か)が始まっていなかったのがよかったので工事用道路は歩いていくことができた。下山時は、これから今日の作業が始まるようで、多数の工事関係者が工事用重機付近に集まっていた。祝日であったが工事は実施するようでした。この道路は何処から通じているのか不明



鬼太郎 ルートMAP



3号風車と山頂

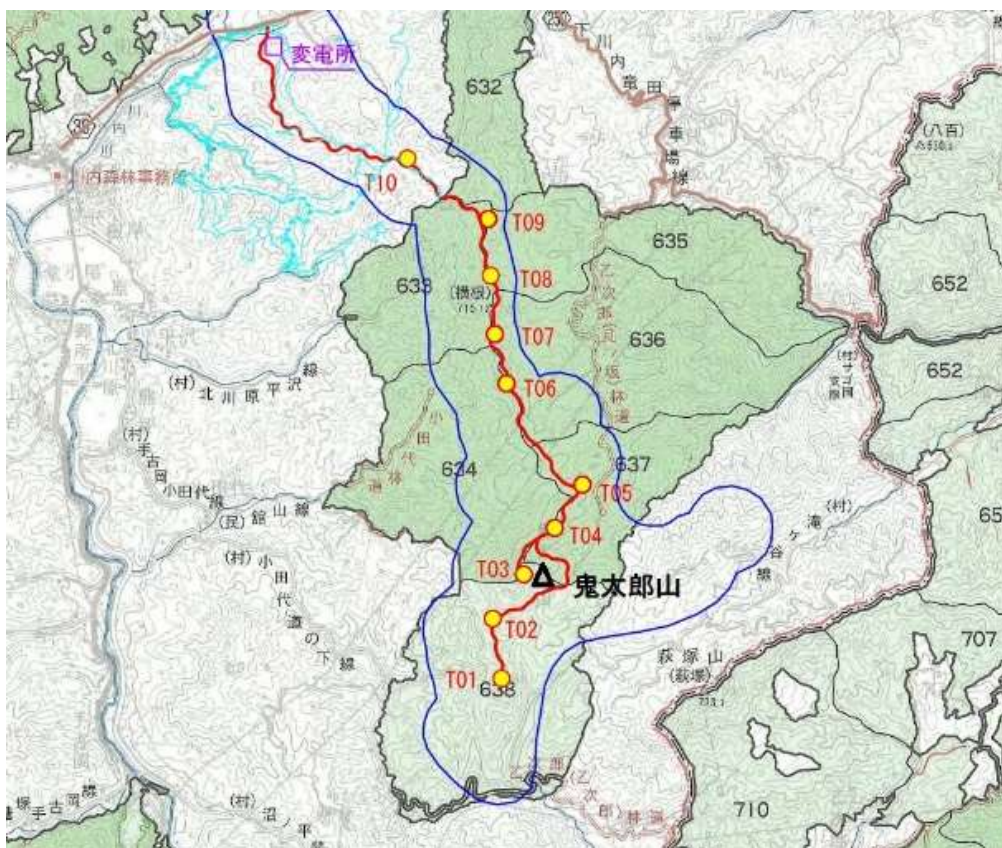
でしたが後日調べた資料によると、北側の田ノ入地区西側の変電所建設予定地まで通じているもよう。最終的には、舗装されるので鬼太郎山の周辺も一変してしまうだろう。今後、風力発電用道路は通行制限が発生するかもしれません。

公開されている資料によると、この風力発電事業は「川内鬼太郎山風力発電事業」で2025年の開業を目指して工事が進められているようです。

GoogleEarth(2024年5月)でも工事中の作業道が半分確認できる(残りは撮影されていないようだ)。鬼太郎山の山頂近くに設置されるのは3号機で、現在の

山頂の南110mのピークに設置されるようだ。幸い鬼太郎山の山頂は残るようだが、工事中は登山はできるのだろうか。ここまで開発され稜線に10基もの発電用風車が回るようでは鬼もすめない。いまでは風車が鬼か。

福島県は近年いくつかの山に登っている。登ったことのある神楽山や雨降山、焼倉も風力発電が計画されて山容が大きく変化している。よく行く場所が福島県方面だからか福島の山には風力発電が目立つ気がする。自然エネルギー取得のために自然(山)が変容していくのは複雑な気持ちだ。



鬼太郎風力発電事業MAP

POTAの運用

7K1CPT 山田 清治

Parks on the air POTAを耳にされている方は少なからずいらっしゃるのではないかと思います。昨年のハムフェアの後に「なにか新しいプランは無いかな？」と考えていて、たくさんの方が参加しているPOTAはどうなんだろう？ やってみることで魅力を感じることができないかと思い、始めてみました。まずはHPを探し、登録することから始めます。登録は無料です。登録した後にしばらくすると、ハンター(POTAの公園で運用している局と交信する)として今までどれくらいの交信があったのか？ それによって達成したアワードなども表示されます。ハンターとしての作業は交信するだけでuploadの必要はありません。自分が運用する側となる場合、1か所のアクティビティを成功させるのには10交信が必要です。

最初の運用は新宿区の戸山公園内にある箱根山で行いました。山というには気が引ける場所ではありますが、戸山公園という形で運用を行い、なんとか10交信をすることができました。ログは運用した方がuploadする必要があります。WEBで検索するとハムログCSV形式のファイルをuploadする形式のAIDFファイルに変換してくれるページがあり、そこで作られたファイルをPOTAのページでuploadすることで完了します。成果が展開され

るには数分かかる様ですが、自分の運用の記録を残すことに成功しました。

なぜ、山と無線でPOTAの話を出してきたか？ POTAは国が指定する公園と都道府県が管理する公園が有効となり、それぞれにナンバーが付与されています。国立公園や国定公園の中にはご存じのとおりあちこちの山が含まれています。国指定の公園地域に入らなくても都道府県の管理する公園から運用すればそれぞれに成果が記録に残ることになります。最近意識的に訪れるようになった飯能市と日高市の山は埼玉県指定の奥武蔵自然公園となっていて、天覧山・多峯主山・龍崖山・柏木山・日和田山・高指山・物見山・伊豆ヶ岳などの登りやすい低山があり、それぞれ1日で10交信するとポイントになってくるようです¹。同じところに行くことは目標としての意識が薄れてくるような感じもしますが、ポイントとして記録されていくと、ちょっと行ってこようかなという気分になります。基本は「よりたくさん公園から運用するもの」ですが、同じ場所に何度も足を運ぶカテゴリーもあります。20回運用するとアワードが発行されるようです。原稿を書いている現在は奥武蔵自然公園が19回になっています。また、同じ公園内から1000交信することで得られるアワードもあり、こちらは奥武蔵自然公園で790交信程度の記録があります。興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひチャレンジしてみてください。

¹ 同一公園内の複数の山を縦走する場合、1日(UTC)で合計10交信以上すればポイントになります。

さて、この辺で山歩きの話です。今年の山と無線一斉移動はつくばの方に出かけて2日間運用を楽しむつもりでした。直前に会社の都合で日曜日に出勤となってしまう、プランは白紙となりました。土曜日の一日だけでも一斉移動に参加しようと考えたのが、比較的アクセスのしやすい川越山(カンゼ山)でした。6時半に出発し、正丸駅に着いたのが8時半。ちょっと乗り継ぎが悪かったようです。週末ということも有り登山者はまあまあ多い感じでした。歩きなれた道を進み、正丸峠を目指します。約1時間で正丸峠に到着。ここで小休止。同じように休憩をとっている人が8人ほどいました。ここに来る人のほとんどが伊豆ヶ岳に向かいます。私は反対に正丸山に向かい歩き始めます。こちらに来る人はほとんどいません。正丸山まではほとんど登りの道、到着するとそこからは上り下りの少ない道になりました。10時50分に川越山(カンゼ山)に到着。木々に囲まれ見晴らしは良くありませんが、木々の間からすこしだけ先の山々の姿が見えました。

到着して、息を整える時間も惜しくアンテナの設営に取り掛かります。尾根道は飯能市と秩父郡横瀬町の境界が通っているようで、十分に横瀬町側に入ったところでカメラ三脚を立て、釣り竿でロングワイヤーとATUを設置しました。リグはIC-705。FT8運用のためにノートPCも持ってきた。川越山はPOTAでは武甲自然公園に入る。運用は7MHz-FT8でスタートし順番にバンドを上がっていく。POTA



正丸山



川越山

のアワードの中には1か所で10バンドの運用を行い、それを10か所で行えば達成するアワードがあります。順調に50MHzまで交信を進めて、残りは144/430の2バンド。ただ過去に50MHz～430MHzまでは交信を行っているので目標は達成しており、あとは出発するまでPHONEでのんびり交信をしようということにした。ロングワイヤーアンテナを撤収し、カメラ三脚に144MHzのダイポールを設置。呼び回りをしたりCQを出してみたり。交信が伸びなくなったところで

アンテナを430MHzの2ele Yagiに変更しFMで運用を開始する。週末ということもあり、結構順調に呼んでもらうことができました。たくさん呼ばれてもなるべく会話・情報交換などできるようなペースで運用を楽しみました。一斉移動の局とも2局ほど交信することができました。

15時になり撤収を開始。山頂標識の前での記念写真はこの時間でもよい日の当たり方にならず、結局良い写真にはならなかった。4時間の無線の運用中この道を通った人は5人ぐらいでした。川越山を出発するとすぐに急階段になります。階段といっても使いにくく土がくぼんでいるので階段を使ってジグザグに降りているような感じです。この道を登りに使うのは嫌だなあなんて思っていたら、反対から登ってくる人が2名ほどいらっしまいました。かなり息が荒い感じです。旧正丸峠まで降りて、右に折れます。ここからは急坂はほとんどなく、足が楽になります。でも落ち葉の下の突起に足をとられないように気をつけました。ここまで一度も登り返しが無い。ということは上りに使うと、登り続ける道になるということになる。一度車道に出て少し進むと川沿いの道に下るところがある。以前通っている道なので迷うことなく進むことができた。途中何度か顔に蜘蛛の巣が引っ掛かった。もしかしたら今日はだれも通っていないのだろうか？週末で満員と思われた西武秩父線の乗客たちは、やはりメジャーな道を通りメジャーな山を楽しんでいるのかもしれない。道が舗装になり、民家が見えて



川越山直下の階段



旧正丸峠

きた。出発した正丸駅まではあと少し。駅に到着すると次の電車まで少し時間がある。自販機でお茶を買ってのどを潤した。駅前には蕎麦を提供してくれるお土産屋さんができたらしいが、閉店時間が15時だそうで、おなかを満たすことはできなかった。もう少しの我慢かな。ホームに進むと、先ほど川越山を出発した直後にすれ違ったハイカーがベンチに座っていた。下山の時間はだいたい同じくらいなのかもしれない。登り1時間50分・下り1時間10分・無線4時間、今回も充分楽しめました。



HF ロングワイヤー



144 DP

究極のハンディHF機 KH1 でSOTA

JG1BOK 川真田 智

エレクラフトから小型軽量のKH1が販売開始された。昨年10月に早速注文したものの、全世界のSOTA愛好者からのオーダーが多いようで、ようやくこの春に入手、JARD保証認定を経てSOTAで使い始めた。



KH1は40-15mバンド、CW機で、構成は流行りのSDR構成ではなく、かつてのKX1と同じシングルスーパーで、KX1の進化版という位置づけだ。特徴は

- 軽量コンパクト：バッテリー込み313g、ロッドアンテナ、パドルなど込み込みでも381g
- 7,10,14,18,21MHzの5バンド、5W出力
- IF=9.215MHzシングルスーパー、4Poleのクリスタルフィルター
- Li-ionバッテリー、ATU内蔵
- 付属ロッドアンテナ+カウンタポイズで14MHz以上はこれだけでQRVできる(内蔵ATU併用)

- 手持ちでQRVするための、カバー兼メモ帳、組み込みパドルを備える
- 40字まで拡張されたメモリーキー、送信符号の録音機能



KX1(左) KH1(右)

小型軽量な点は素晴らしく、KX1が444g、KX2が564gなので、際立っている。同じような回路構成のKX1は最大でも4W(外部12V供給の場合、内蔵電池では1W程度)なので、大きく進歩した形だ。KX1に比べKH1は軽量化のためか、ケースの厚さも大分薄くしてある。少し華奢なので、扱いには少し注意が必要だ。

まずは実用上で最も気になる受信性能を見てみた。SGから8Hzで変調したキャリアを入力、聞き取れるかどうかという聴感評価で見てみた。KH1のAFは出力が低いので、内蔵スピーカーによる比較では大きく見劣りするが、イヤホン使用では-30dB μ Vまで聞こえて、KX1を凌駕、KX3と同等で遜色ないという結果だった。ウルトラコンパクトで十分な性能のKH1、SOTAにおける強力な相棒となる予感を胸に、実運用してみた。

運用記 2024年3月30日

本社ヶ丸(JA/YN-043)

自宅を2時に出て林道ゲートに4時半着、冬季閉鎖中なのでゲート手前に駐車。暗い中ヘッドライト点けて5時にスタート。三つ峠登山口からは清八林道をたどる。林道途中で明るくなる。5時40分、八丁峠、ここから山道を登る。急な所もあり、息を切らせて清八山、6時。素晴らしい富士山の姿を堪能する。清八峠まで下るが、凍結箇所があり、チェーンスパイクを装着し通過する。清八峠から岩場のコブを何個か越えていく。途中の露岩から見える富士山の姿に癒され、励まされる。岩場を登って峠から30分程で頂上、6時40分。早い時間なので、流石にここまで誰にも会わず静かだった。頂上は狭い岩峰なので展望は素晴らしい。富士山もきれいに見える。



本社ヶ丸頂上から富士山

展望を堪能した後は無線を楽しむ。今日は、新アイテム、エレクラフトのKH1を初めて使う。まずは、アンテナにAX1を使い、ハンディスタイルで始める。

20mでいつも呼んでもらっている長野局と交信できてほっとする。その後17m



KH1+AX1 ハンディスタイル

で一局、20分少々やるが、コンディションなのか飛びが今一つなのか、なんとか2局と交信できたという感じ。そこで、いつものカーボンロッド直接給電に切り替える。こちらの方がよく飛んでいるようで、呼ばれるようになる。40mで国内チェイサー各局に呼んでもらって15mにQSY、W,ZL,VKからも呼んでもらってうれしい。そして30mで大阪のSOTA局、40mで山梨のSOTA局とS2Sできて、またまたうれしい。1時間ほど楽しみ、交信数は18、うちS2Sが2交信、DXは3交信と、KH1初運用は自分的には大成功だった。片付け、最後にカップ麺を食べて温まってから下山開始、来た道に戻る。何度か岩峰をアップダウン、展望が開けると富士山が見え、楽しみながら行けるので、あっという間に清八峠。清八山で富士山ビューを再度堪能してから、名残り惜しいが下る。林道まで降りてくると、暑いくらいで、一汗かいて帰着。

その後の山行でもKH1は大いに活躍している。ハイキング部の部活動で訪れたJA/TK-006御前山では、ハイカーも多く、運用時間も限られていたため、手早く設置できる40m用ホイップ(自作)を使っ



JA/TK-006御前山にて

てコンパクトかつ目立たないように運用した。長いホイップを手持ちで使うのは、ハイカーが多い山頂では危ないので、三脚などで自立させて使った方が良いと思う。

カスタマイズ

カスタマイズのアイデアを練り、製作するのも楽しい時間だ。まず、カラフルなダイヤルを3Dプリンタで製作した。軸径はKXシリーズと共通だが、長さが異なるので新たに設計した。ログ帳兼カバーは機能的で素晴らしいが、山で使用するには少し華奢で心もとない。SOTA運用では

リグを岩の上に置いたりもするので、柔らかい素材(TPU)で全体を覆う保護カバーを製作した。上面の保護も兼ねてカウンタポイズやイヤホンコードなどを巻き取るピラーを4隅に出してみた。

ダイヤルは屋外で目立って良い、カバーのおかげで華奢なKH1も安心して使える、など、実際のSOTA運用で重宝している。

おわりに

小型軽量で高性能なKH1、国内外SOTAで多く活用されているようだ。自分のSOTA運用でも大いに活躍中で、山行の相棒として不可欠な存在だ。リグが大きく重いと思っているCWフリークなアクティベーターの方々、KH1お勧めです。なお、山行・運用・自作などはブログやヤマレコ、YouTubeにUpしてあるので、是非ご覧いただきたい。

ブログ:<https://jg1bok.seesaa.net/>

ヤマレコ:jg1bok_599

YouTube:BOK_SOTA_Channel



立山山スキー山行

JK1NRL 竹之内 一弥

今年の山スキーシーズンは例年どおりH師匠とあちこち出かけていたのだが、そのH師匠から3月末になって「5月に立山どう？」とのお誘いを受け、是非もなくお誘いに乗ることにした。しかし、4月に入って夏のような気候になり、いくら雪深い立山でも大丈夫だろうかと心配になっていたところ、5月連休中に立山に行かれたJK1NAG河野さんから、雪残ってますよ、との連絡をもらい、胸をなでおろしての山行待ちとなった。

2024年5月16日(木)

夜9時ごろ自宅を出発、深夜0時頃ごろ扇沢に到着、無料駐車場に車中泊した。未明に激しい雨音で目が覚めた。2日前に入山しているH師匠からは雪が降ってきたとの連絡もあったし、明日はどうかと心配しながらうつらうつらと仮眠を続けた。

2024年5月17日(金)

7時、降っていた雨はほぼ止み、少し安心して扇沢駅に向かった。予約した初発バスを待つ列に並ぶ。列の直前に大荷物を抱えた山スキーの方が居て少しお話。富山側から入山する仲間がいて雷鳥沢キャンプ場で落ち合っただけで、私は荷物を担ぎ上げる気合がないので山小屋泊で、などと応答するうちにバス乗車が始まった。電気バス、ケーブルカー、ロープウェイ、



コース1日目 (5/17)



コース2日目 (5/18)



コース3日目 (5/19)

そしてトロリーバスと目まぐるしく乗り継いで、9時過ぎ、室堂ターミナルに到着した。

室堂は予想通りガスがかかって回りが全く見えなかった。道脇に立つ標識に従って雪道をモクモクと歩き、途中、早速期待の雷鳥に会って、9時半過ぎ、H師匠の待つ雷鳥荘に到着した。



リンドウ池付近で雷鳥お出迎え

宿に荷物を置き、山スキーの恰好にして出発。まずは浄土山にアプローチした。ガスがかかり視界不良で、山道も雪に埋まっていて、どこをどう行ったらよいか困るところ、勝手知ったるH師匠の導きにより問題なく進むことができた。一ノ越山荘直下をトラバースし、浄土山直下のコルへつながる尾根を強風に煽られながら登ると、富山大学立山研究所の立つ広場に到着した。さらに緩い坂を上って浄土山山頂に到着した。ガスで眺望はなかった。早速アマ無線交信を開始。金曜日なので応答があるか心配だったが、CQ一発で埼玉県久喜市から強力な応答が来た。標高(2831m)の威力だろうか、この地は

430MHzでの交信に問題ないようだ。もう一局長野の局と交信後、東側斜面をスキー滑走。昨日降った雪がデコボコだった雪面をパックしてとても滑りやすい状態で、思わず歓声をあげた。



浄土山東斜面を滑降

浄土山を滑り降りた後、浄土山北側を廻り込んで西隣の室堂山へアプローチ。ここは緩やかな丘状の山で、40分ほどで山頂に到着した。登高中にガスが晴れてきて、振り返ると室堂平から立山連峰が一望できた。広い。素晴らしい。無線は430MHzで地元魚津市の局と交信。明日、明後日も登山無線の予定と話すと、こ



室堂山山頂で無線

のあたりは1200MHzでもウオッチしている局があるので出てほしいとリクエストをもらった。

きれいな緩斜面を一気に浄土沢までスキー滑走。さらに浄土沢に沿って雷鳥沢キャンプ場まで快適に滑り降りた。ここから雷鳥荘までは100mほどの登り。グズグズの雪をスキー担いでツボ足で登ったのでヘロヘロになってしまった。16時半、雷鳥荘に到着。宿には本日から同宿する先輩2人が待っていた。

宿泊した雷鳥荘は、広い温泉風呂あり、充実の食事が提供された。山小屋ではなく旅館の体裁で、ゆっくりゆったり過ごすことができた。

明日の行先をH師匠と相談。H師匠は劔岳山スキー滑降の下見として平蔵谷を偵察すべく、別山乗越まで登って真砂沢か劔沢を滑りたいといわれる。これは標高差1000mの滑走になりとても魅力的だけど、長い登り返しが必要で躊躇したところ、ま、行ってみて、適当なところで別コースを取りましょう、ということでまとまった。

2024年5月18日(土)

4時半起床、昨晚宿に用意してもらった弁当を食べて5時半に出発。まず浄土沢へ滑り降りる。雪が凍っていて滑りにくい。昨日と打って変わってノロノロ滑降になった。



劔沢を滑降中。正面に劔岳。

浄土沢を越えて雷鳥沢左側に取り付く。途中で立山連峰から朝日が昇る。草藪に雷鳥のつがいを発見。スキー登高はいつもシンドイけれど、こういった眺望や風景が楽しみで励ましになる。

7時半、別山乗越に到着すると正面に劔岳が現れた。雪をまとった劔岳、実にカッコイイ。そしてその脇に大きく横たわる劔沢。滑走意欲をビンビんに刺激され喜び勇んで滑降開始。昨日同様雪面コンディションは上々で、あっという間に劔沢中盤の劔沢小屋まで滑り降りた。8時半、ここで平蔵谷視察にいくH師匠と別れ、3時間後に劔沢小屋上部で落ち合うことにした。私はヤマランポイントを稼ごうと、そばに

あるポイント、劔御前への登高を開始した。

この位置から劔御前への登高跡はなく、目標を見ながら雪の斜面を適当に登っていった。30分後、最初に見定めた山は実は間違いで、本物はもっと遠くにあることを認識。登高意欲が一気に萎えて、思わず斜面のど真ん中で大休憩した。天気は快晴、日差しが強烈で、露出していた顔の下半分をジリジリ焼かれた(日焼け止めクリームを塗ったから大丈夫だろうと思っていたが、火傷レベルの日焼けをしてしまった)。登高再開するとさらに急傾斜となり、苦しい上になかなか近づかない。業を煮やして何回も登るのを止めて滑り降りようかと考えたが、H師匠との待



オーロラ?? (雷鳥荘より)

ち合わせにはまだ時間があるし、滑り降りてもやることがないなと思い直してなんとか登り続けた。すると、遠かった山がだんだん近づいてきた。あともう少しの思いで登高を続け、10時40分、頂上直下の古雪の箇所到达了。ここは雪がグズグズでスキークトーも効かず登れなくなったので、スキーをアイゼンに履き替え登高を続行した。さらに、雪が禿げて岩が露出した頂上部直下でアイゼンを外して岩をよじ登り、11時10分、劔御前に登頂した。

眺望は素晴らしく、目の前の劔岳から西は富山平野、南は立山連峰、東は別山ま

で全方向であった。無線は南会津・燧ヶ岳山頂にいる局と交信でき、お互いに健闘を称えあった。ここでH師匠との待ち合わせ時間まで残り30分となったので、無線を切り上げ下山開始。スキーを履いてか



劔御前より劔岳



大汝山-雄山稜線から見る、室堂平と
奥大日岳・大日岳

らは一気に滑り降り、12時、待ち合わせ場所の剱沢小屋上部に到着した。10分後にやってきたH師匠は平蔵谷を7割かた登高、剱岳頂上まで行けることを確認したとのことであった(スゴイ、そこまで行ったんですかあ)。

別山乗越まで登り返し、その先の雷鳥沢を滑走した。ここは剱沢より少し急だが、広くて快適であった。雷鳥沢キャンプ場まで滑り降りた後、雷鳥荘までスキー登高した。14時、雷鳥荘着。早々に宿の温泉に浸かってマツタリした。

2024年5月19日(日)

朝方4時、同宿先輩の「オーロラが見えるよ～」の掛け声で起こされる。うそでしょ、朝焼けじゃないですかあ、という、いや北方向だから朝焼けじゃない、という。そうなのかなあ、まあ太陽活動が過激になっているこの時期、見えてもおかしくないね、と半分眠った頭で同意して寝なおした(真相は不明です)。

8時、宿を出発。本日最終日、やはり主峰



静かな大汝山山頂

に登っておかねば、ということで、雄山へ向かった。初日と同じルートで一ノ越までスキー登高。ここで黒部平駅まで滑り降りるH師匠と別れ、私はスキー板をデポして雄山へアタック開始した。ここは完全な岩山で山道には大きな岩がゴロゴロ。おまけにスキー靴で登りにくいことこの上なし。ノロノロと歩を進め、11時10分、雄山神社が鎮座する雄山頂上に到着した。360度眺望を堪能した。

雄山頂上からは次に行く予定の大汝山が目の前に見えたが、積雪のためか山道がよくわからない。行けるかちょっと心配になったが、戻ってくる登山者が見えて、行くことを決意。最初は緩やかな雪道、そのあと稜線上にある岩山をへつり状に通過して、11時50分、雪の大汝山に到着した。ここでいつものようにアマ無線を開局(430MHz)。30分ほどで福島県福島市から三重県桑名市まで10局交信でき、3000m峰の高さを実感した。

来た道を引き返し、再び雄山に登頂。無線を1局こなして山ランポイントをゲットしたのち、岩の山道を下山した。一ノ越からはスキー滑降し、14時半、室堂ターミナル駅に到着した。

今回、初日午前はガスがかかってイマイチだったが、その後は天候よく、雪の状態もよくて、素晴らしい立山を満喫できた。まだ登り残した山が多数あるので再訪したいと思っている。

新規会員募集

山岳移動通信 山と無線 とは

山岳移動通信 山と無線 は山好き・無線好きの各局が集うグループです。

- 情報共有のサロンとして「山と無線メーリングリスト」に参加していただけます。
- 登山も無線も初心者からベテランまでさまざまな方が参加しています。
- 年1回発行している「山岳移動通信・山と無線」誌は、移動各局の随想や紀行文・移動運用記を中心に、メンバーが各々の山行と無線にまつわる出来事を文章に綴り自由に投稿したもので成り立っている同人誌・ミニコミ誌です。
- 山岳移動通信 山と無線 に参加して、読むだけでなく随想や紀行文を投稿することでの楽しみ方を増やしてみませんか。
- 当グループは特に会費も会則もないグループです。
- 年に1回位はメンバーで集まろうよということでハムフェアへの出展を続けています。展示ブースは8月天の川の出会い・アイボールの場でもあります。
また山にも一緒に行こうよということで、希望者を募り一泊でのアイボール会を例年秋に実施、フェスティバルと称し山に登って山頂から電波を出しています。

こんな山岳移動通信 山と無線 への参加を心よりお待ちしております。

ご入会、お問い合わせはホームページをご覧ください。

<http://yamatomusen.com/info/>

山岳移動通信

山と無線

山岳移動通信 山と無線 61号

編集 山と無線 編集室

発行 2024年8月14日

発行者 JK1VUZ 三縞 健司

Email jk1vuz@gmail.com

表紙写真 氷ノ山山頂

撮影 JK1VUZ

転載はご一報ください。